



木更津市立木更津第二中学校
 〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
 ☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233
 E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



木二中 学校だより 令和7年9月22日
 No.19/104 校長 山元 竜二

教育講演会「飯田哲也氏に学ぶ」(仮称) ～ 元プロ野球選手の足跡から ～

これまでに様々な分野の第一線でご活躍されている方々をお招きし、「講演会」であったり「実技指導」であったりと木二中生の皆さんのためになる事業(行事)を展開してきましたが、今回は元ヤクルトスワローズの飯田哲也氏をお招きし、木二中生の皆さんが将来、逞しく生きていくことができるようなお話をさせていただこうと考えています。講師依頼については快く承諾していただき、現在、日程を調整しているところです。講演会詳細については後日改めて連絡します。以下に飯田哲也氏について紹介いたします。(掲載についてはご本人より承諾を得ています。)

飯田哲也【右投右打 外野手、二塁手、捕手】

- 【選手歴】 拓大紅陵高校→ヤクルトスワローズ(1987-2004)→東北楽天ゴールデンイーグルス(2005-2006)
- 【プロ入り】 1986年 ドraft4位
- 【初出場】 1989年4月12日
- 【最終出場】 2006年10月1日(引退試合)
- 【コーチ歴】 東京ヤクルトスワローズ(2007-2013)→福岡ソフトバンクホークス(2015-2019)→拓大紅陵高校

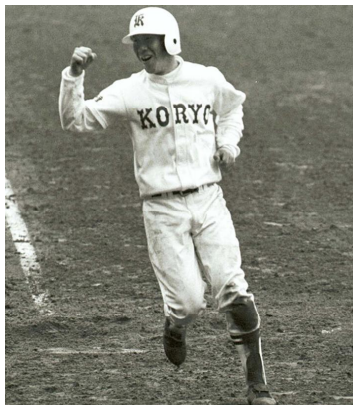
現役通算18年間で1,505試合に出場、通算打率.273(通算1,248安打)、盗塁234

主なタイトル・表彰

- 盗塁王：1回(1992年)
- ベストナイン：1回(外野手部門：1992年)
- ゴールデングラブ賞：7回(外野手部門：1991年 - 1997年)
- JA全農Go・Go賞：2回(好走塁賞：1995年4月、強肩賞：1995年9月)
- 日本シリーズ優秀選手賞：2回(1992年、1993年)
- ゴールデンスピリット賞(2002年)

節目の記録

- 1000試合出場：1998年8月25日、対広島東洋カープ22回戦(明治神宮野球場)、8回裏に土橋勝征の代走で出場 ※史上347人目(谷繁元信と同日達成)
- 1000本安打：1998年10月9日、対阪神タイガース27回戦(明治神宮野球場)、7回裏に中込伸から右中間二塁打 ※史上193人目
- 1500試合出場：2006年9月22日、対西武ライオンズ18回戦(フルキャストスタジアム宮城)、1番・中堅手で先発出場 ※史上148人目



高校時代の飯田哲也氏

飯田哲也さんは、学年で言うと校長先生が拓大紅陵高校3年生の時の1年生。先輩・後輩の間柄になります。プロ野球の世界でも大活躍された人なので、いつか中学校にお招きし、未来ある中学生にいろいろなお話をしてもらいたいと考えていました。

野球以外のスポーツをしている人や野球に興味がない人でもある分野の第一線で長い間活躍してきた人の話を聞くことができる貴重な時間になると思います。もちろん質疑応答の時間も設けたいと考えているので、将来のことや失敗から立ち直る方法だったり第一線での活躍の秘訣だったり、野球以外の事であってもたくさん質問できるといいですね。

人を導く羅針盤になる覚悟はあるか？ ～ リーダーは集団を動かす道標・道導(みちしるべ) ～

各学年、各学級、合唱コンクールに向けての活動が始まりました。また、3年生は既に修学旅行を終えましたが、24日には1年生が横浜に、そして25～26日には2年生が東京方面に企業体験を含めた宿泊学習(校外学習)に出かけることになっています。当然、コンクールや校外学習といった学校行事には集団を統括するリーダーが必要で、組織を動かす要(かなめ)にならなければいけないことは言うまでもありません。3年生の修学旅行では、修学旅行実行委員長に各学級会長、そして班長や係長、部屋長に至るまで様々な立場のリーダーたちが様々な場面でその役割を果たし、修学旅行を成功させました。言い換えれば、「それぞれのリーダーがその職責を果たして集団を成功へと導いた」と言えるでしょう。

合唱コンクールでは合唱責任者や指揮者、校外(宿泊)学習では学年生徒会や班長といったリーダーたちに、「集団を成功へと導く」という大きな責任を全うする覚悟があるだろうか？リーダー自らが人を導く羅針盤になる覚悟はあるだろうか？そして、リーダーであるあなた自身に、「俺の(私の)背中についてこい」という気概(きがい=困難な状況に直面しても挫けず、それを乗り越えて前進しようとする強い心意気や意志を指す)はあるだろうか？

そんなリーダーたるために、一番大切なリーダーとしての資質とは何だろうか？中学生の皆さんに聞きたい。リーダーではない人にも、どんなリーダーならついて行こうと思えるのか考えてもらいたい。力強さ、戦略、知恵、優しさ、賢明さ、先見の明、影響力、緻密さ。他にも数あるリーダーとしての資質の中で、何が最優先されるべき資質なのだろうか？

私が考えるリーダーとしての資質の一つは、「大敵でも臆せず、小敵でも侮らず、どんな敵であっても恐れぬ心」を持ち合わせているということ。戦(いくさ)ではないので、ここで私が言う「敵」とは、新たな挑戦や反対意見、または未知の経験や環境などを言いますが、そういった恐れに潰されることなく集団を導こうとする姿勢が何よりも大切ではないでしょうか。何かを成し遂げようとする際には、多かれ少なかれ、反対勢力が現れたり、未知なる環境で困惑したりするもので、成し遂げようとする目標が高ければ高いほど、そう簡単に何もかもがうまくいく訳がない。それでもなお、リーダーとして逆境に負けずに組織の命運を握って前に進むことができる気概を持っているかどうか重要なファクターになる、私はそう思います。

もう一つ。実力があるリーダーであればあるほど、組織に属する一人一人に寄り添い、耳を傾け、置かれた立場や境遇に共感することができるということ。ごく稀に、組織の中で厳しく接すれば人は緊張感を持って動くのだと勘違いしているリーダーがいます。確かに怒声や罵声、圧力といった「恐怖」で組織を支配すれば、一見リーダーに従い、緊張感のある組織のように見えますが、そこに属する人たちは皆「どうしたら怒られないで済むか」しか考えることができず、そんな組織には主体性も創造性も生まれません。主体性も創造性もなければ、組織としての生産性も上がるはずもないのです。つまり、敵に負けてしまうということ。やがて組織は秩序を失い、思考が停止、一人一人がただ指示を待つだけの集団になる。組織の崩壊です。

一方で生産性の高い組織は、組織を構成する一人一人のメンバーがリーダーに認められ、組織の中での役割を認識(理解)し、リーダーの指示を納得した上で与えられた役割を果たそうとします。そう、そこにあるのは「萎縮」ではなく「自立」や「自律」。そんな組織だからリーダーの指示がなかったとしても一人一人が自ら動く。自然に動く。何のために動くのかを理解している。そんな組織になれば、リーダーとしてこの上なく誇らしいと思いませんか？

人の上に立つリーダーは、何をやるにも大変なこと。名ばかりのリーダーではなく、組織を、人を正しい方向へ導くには痛みが生じることだってある。それでもリーダーの皆さんには、この木二中をもっと良くしたい、活気あふれる学校にしたい、ここに通う生徒が皆、笑顔であふれる学校にしたい、そんな気概をもった道導(道標)になってほしいと思います。